

こちら特集

「ニュース女子」訴訟大詰め

テレビ番組「ニュース女子」を巡る訴訟が大詰めを迎えている。訴えているのは、市民団体「のりこえねっと」共同代表の辛淑玉さん。沖縄の米軍訓練場内のヘリパッド建設についての放送で、反対する市民をテロリスト、辛さんを「黒幕」のように描き、名誉を傷つけられたというのだ。今月十七日、辛さんら原告と、被告の番組側の尋問が行われた。放送から四年余。放送人権委員会が「人権侵害」と批判した番組が残した課題を改めて考える。

(佐藤直子)

「番組は私自身と、戦争につながる基地建設はいやだと、人生をかけて声を上げている沖縄の人を笑いものにし、貶めた。(敵視した人種を差別する)レイシズムであり、ジェノサイド(集団虐殺)の正当化につながる。黙っていたらずっと続くと思いました」。コロナ禍で一年ぶりの再開となった東京地裁の法廷で、辛さんは提訴への思いを述べた。

辛さんは名誉を傷つけられた賠償に千百万円の支払いを求めている。この日、被告で番組の司会を務めた本紙元論説副主幹の長谷川幸洋さん、やはり被告のD

民事訴訟の本人尋問を終えて記者会見する辛淑玉さん(中央)＝17日、東京都港区で



のりこえねっと

HCテレビジョンの関係で、番組制作会社「ボーイズ」執行役員の一色啓人さんらも法廷に立った。問題の番組は二〇一七年一月に二週にわたり、東京MXテレビで放映された。

当時、沖縄県東村高江で強行されていたヘリパッド建設に反対する市民の抗議行動を「武闘派集団」「テロリスト」などと表現。辛淑玉とは何者か」と辛さんを名指しした上で、

「反対運動を扇動する黒幕の正体は？」とテレビ画面にテロップ(文字)をつけた。

裁判長に向かって辛さんは「それまでネットを中心にした私への誹謗中傷が、地上波で公然と流された。一線を越えたと思った」と語った。番組放送後、追い打ちをかけるように国会内で「辛淑玉氏等在日朝鮮人による反日反米工作を糾弾する国民集会」が開かれ、国会議員も参加した。

その傷がどれほど深かったか。「怖かった」と辛さんは振り返る。自宅前に何時間も不審者がいたり、屋外のごみ箱に排せつ物を入られたりした。夜中にチャイムを鳴らされたこともあった。死を思うほどに追い詰められ、一時はドイツに生活拠点を移した。そんなことを涙ぐみながら法廷で訴えた。

裁判の焦点は、辛さんから「根拠のないデマ」と訴えられた番組の内容の真実

在日コリアン
黙らない女

二重の「ヘイト」

辛さん「名誉毀損」 番組側「名指しせず」

性を、被告側が立証できるかどうかだ。

番組では、辛さんが過激な反対派を雇い、「日当」を支払ったかのように表現していた。だが、辛さんによると、その金は東京などから抗議に参加する人に配った五万円の旅費。のりこえねっとが市民からカンパを集めて配ったものだ。

尋問を受けた一色さんは、「日当」と報じた根拠を示せなかった。そして、デモの「黒幕」については「誰か分からないから『黒幕』と表現しただけ、辛さんを名指ししたわけではない」と釈明した。

裁判所がどう判断するかはまだ見通せない。だが、テレビ関係の諸機関は既に、番組に問題があったと結論付けている。

放送倫理・番組向上機構(BPO)の放送倫理検証委員会は一七年十二月に「中核となる事実裏付けはなく、重大な放送倫理違反があった」とする意見を公表。放送人権委員会は一八年三月、「名誉毀損の人権侵害が成立する」と認定している。これを受けて東京MXテレビは同年七月、辛さんに謝罪した。

辛さんに謝罪した。